

# 行雲流水

No.361 令和6年1月18日発行

被災地を支援する行動を考えていこう

校長 寒河江 正人

このたび、「能登半島地震」で被災された多くの方々を支援するために、本校の生徒会が**募金**を呼びかけ、多くの皆様からお寄せいただきました。

3学期始業式の校長式辞での呼びかけに、いち早く立ち上がり、行動を起こしてくれたその**勇気ある決断と行動力**に感謝します。

また、本校の生徒諸君、教職員の皆様、この趣旨にご理解とご協力をいただき、**義援金**にご協力いただきましたことに、心より厚く御礼申し上げます。

皆様からお寄せいただいた義援金は、**総額7万6662円**になりました。本日、「公益財団法人山新放送愛の事業団」及び「日本赤十字社」を通して、**被災地の復旧や被災住民の支援**に役立てていただくべく、現地へお届けします。

さて、被災した現地の状況は、今なお予断を許さない状況にあります。

本日の新聞では、

小中学校の再開が見通せないため、まず、石川県輪島市の**中学生258人**が保護者の元を離れ、100キロ先の白山市に集団避難したことが報じられました。今後、珠洲市は**約100人**、能登市は**約40人**の中学生が、金沢市に集団避難すると明らかにしています。

避難期間は、最大約2ヶ月間と見込んでいるようですが、先行きは不透明であり、「地元に戻って新年度を迎えるのがベスト」としながらも、4月以降も続く可能性があるとの見方も示されています。実際には、石川県内の小中学校で計20校が避難所として使われていたり、地震で被害を受けており、始業時期が決まっていないとのことです。

**シンク・グローバル、アクト・ローカル、ビー・ア・グローカリアン！！**

今後の状況を注視しながら、**私たちにできる行動**を共に考えていきましょう！！